

第52回 試験研究成果発表会 (林業)

千葉県では、農林水産業に関する最新の試験研究成果を広く関係者の皆様にお知らせするとともに、皆様からの声を今後の研究に反映させるため、各部門・地域で成果発表会を開催しています。

参加は無料で、事前申し込みも不要です。当日先着220名様とさせていただきます。お気軽にご来場ください。

日時: 平成27年2月18日(水) 13:30～16:00

会場: さんぶの森文化ホール (山武市埴谷 1904-5)

【プログラム】

発表1【13:40～14:05】

森林に残された資源「木質バイオマス」の搬出方法
-小規模森林で利用可能な簡易な搬出方法の紹介-

森林研究所 廣瀬 可恵

発表2【14:05～14:30】

ヒノキの花粉飛散量を雄花の観察から予測する

森林研究所 福島 成樹

発表3【14:30～14:55】

房総丘陵のヒメコマツの保全・回復に向けたつぎ木・さし木による
増殖と種子生産の方法

森林研究所 小森谷あかね

発表4【14:55～15:20】

少花粉ヒノキの種子生産技術の向上を目指して

森林研究所 小林 沙希

《総合討議(質疑)》【15:30～15:55】



【会場のご案内】

(車でお越しの場合)

千葉東金道路・山武成東ICから4.5 km

(電車でお越しの場合)

JR日向駅から2.5 km (徒歩30分)

【お問い合わせ先】

千葉県農林総合研究センター 森林研究所

電話番号 0475-88-0505

【農林総合研究センターホームページ】

<http://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/>



第52回試験研究成果発表会（林業）発表概要

【日時】平成27年2月18日（水）13:30~16:00

【会場】さんぶの森文化ホール（山武市埴谷1904-5）

発表1 成果発表（13:40~14:05）

森林に残された資源「木質バイオマス」の搬出方法

—小規模森林で利用可能な簡易な搬出方法の紹介—

森林研究所 廣瀬 可恵

森林には気象害や病気等の被害を受けた木、タケ、広葉樹など利用されていない資源がたくさんあります。これらを森林から搬出することができれば、木質バイオマスとして有効利用することができます。そこで、千葉県に多く見られるスギ非赤枯性溝腐病の被害材、タケ及びマテバシイを対象に、小規模な森林において誰にでも利用しやすい簡単な搬出方法を紹介します。



タケの搬出の様子

発表2 成果発表（14:05~14:30）

ヒノキの花粉飛散量を雄花の観察から予測する

森林研究所 福島 成樹

スギの花粉飛散量は、花粉を飛ばす雄花の観察により予測が可能となっていますが、スギと同様に花粉症の原因となるヒノキの花粉飛散量については予測手法が確立されていません。そこで、スギと同様に、ヒノキの雄花の観察から雄花生産量を推定し、花粉飛散量を予測することを試みました。ヒノキの雄花は、スギに比べて小さく観察が難しいものの、雄花が観察しやすいヒノキ林（採種園）では、雄花の観察から雄花生産量を推定できることが明らかになりました。



トラップによる
ヒノキ花粉飛散量の調査

発表3 成果発表 (14:30~14:55)

房総丘陵のヒメコマツの保全・回復に向けたつぎ木・さし木による増殖と種子生産の方法

森林研究所 小森谷あかね

房総丘陵のヒメコマツは個体数が減って絶滅が心配されており、保全・回復に向けた様々な取り組みが行われています。そのひとつとして、ヒメコマツ天然個体の遺伝子保存、種子の生産及び貯蔵方法について検討したところ、遺伝子保存にはつぎ木が適していること、種子はつぎ木苗を用いて生産できること、種子は冷凍すれば長期貯蔵が可能ながことが明らかになりました。



ヒメコマツの天然個体

発表4 情報提供 (14:55~15:20)

少花粉ヒノキの種子生産技術の向上を目指して

森林研究所 小林 沙希

社会問題となっている花粉症の対策として、少花粉品種の種子生産が開始されていますが、近年、少花粉スギ採種園に外部から花粉が混入し、生産される種子の少花粉品質が低下することが問題となっています。そこで、少花粉ヒノキの種子生産にあたり、ビニールハウスを利用して雌花の開花時期を早め、採種園外からの花粉と交配しにくくする方法を検討したので紹介します。



少花粉ヒノキの雌花